

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500156		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホーム心音		
所在地	山口県周南市大字久米3146		
自己評価作成日	令和4年4月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年5月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別な事はできないが、家族として共に生活する一員として日々生活を送り、出来る事は継続させ出来ないことは手助けするという支援をさせていただき、安全に健康でお過ごしいただける環境作りに務めています。医療連携体制である医療機関高木内科クリニックの高木医師により、ご家族のご意向によっては看取りの対応もさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、利用者の希望を聞いて、職員が献立を考えておられ、旬な食材や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者は、皮むきなど野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭きなどできることを、職員と一緒にされています。利用者と職員は同じ食事で、一緒に食卓を囲まれ、おせちやひな祭り、母の日のちらし寿司、夏のソーメン、クリスマスの盛り合わせ、年越しそばなどの季節の行事食、誕生日のケーキ、バナナを凍らせたおやつづくりなど、食事を楽しむことができよう支援されています。防災対策として、年2回、夜間想定のお火災時や風水害時の避難訓練を事業所独自で実施しておられ、緊急連絡網の作成で自治会長や自治会防災部長を通して、自治会全員へ連絡する体制が整っており、地域との協力体制を築かれています。自治会にも加入され、回覧板を回したり、職員が地区の清掃活動に参加されています。感染予防対策から、地域の人との日常的な交流は難しい状況ですが、玄関先や駐車場で出会った時は挨拶を交わされたり、訪問理美容の継続的な利用、地域から果物や野菜の差し入れがあるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々意識して実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、利用者の「安心・安全な生活」を大切にし、日常業務の中で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染の影響もあり交流少なくなっているが、地域住民の一員として生活している。	自治会に加入し、回覧板を回している他、年2回、職員は地域の清掃活動に参加している。新型コロナの影響で、近所の人や演芸ボランティアの来訪を中止しているが、3ヶ月に1回の訪問理美容は継続しており、玄関先や駐車場で出会った人とは挨拶を交わしている。地域からは、果物(ビワ、柿)や野菜(蓴、豆)の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の結果を書面で報告し、ホーム内の出来事を把握してもらい理解や支援に繋がるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ガイド集を基に話し合い振り返る機会になり、質の向上や改善に繋がるよう取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義について説明している。自己評価をするための書類を全職員に配布し、職員一人ひとりが項目毎に手分けをして記入し、それぞれ回覧して書き加えたものを管理者がまとめている。評価を通して、利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について振り返り、排泄時の利用者への声かけについて職員間で話し合うなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議が開催できず書面での報告であるが、入居者さんスタッフの状況をお知らせしているが、意見や提案を頂く事ができなかったのので今後改善していければと思う。	会議は、年6回、感染予防対策で書面開催としている。会議のメンバーは、前回と変わらず、資料(職員状況、入居者情報、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束委員会の報告)を送付している。委員からは、コロナ禍での利用者への対応や夜間のトイレへの支援などの質問はあったが、意見や提案を取り入れる工夫としては十分とはいえない。	・意見を取り入れる工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と報告やメールでのやりとりで関係を継続させ適切なサービスが提供できるよう努めている。	市担当者とは、運営推進会議や直接出向いで相談して助言を得ている他、電話やメールで情報交換をするなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議や電話で情報交換をしたり、相談して助言を得るなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないで支援できる環境整備を行い、スタッフも身体拘束について理解して取り組んでいる。	「身体拘束等適正化のための指針」を基に、内部研修を実施して話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。毎月、身体拘束委員会を開催し、運営推進会議で報告している。玄関は施錠しないで、外出したい利用者があれば、話を聞くなど声かけの工夫をしている。スピーチロックについては職員間で話し合い、気になる場合は管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けて現状の問題点、改善点を話し合い虐待のない環境作りを防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はあるが、実際に活用する機会がないため、全スタッフが理解とまで言えない。今後十分に理解できるようにする事が重要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お問合せ時や入居前に説明を十分にさせていただき、重要事項や契約書は事前にお渡しし疑問や不安に対して対応できるようにさせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付方法をサービス提供開始時にお伝えし受付できる体制を整えている。ご家族とは電話やメール、ラインを活用し運営に反映させている。	契約時に、相談や苦情の受付体制や相談窓口、第三者委員、処理手続き等について家族に説明している。家族からは、面会時、電話、ラインやSNSでのメッセージ、毎月の請求書送付時に意見や要望を聞く機会を設けている。請求書送付時には、利用者の生活状況を写真を添えて報告するなど工夫している。ケアに関する意見やコロナ禍に伴う面会時の要望はあるが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で提案や改善、要望等が聞けるようにし反映している。	管理者は、申し送り時や日常業務のあらゆる場面で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員からは、勤務体制の調整、休暇の取得、入居者の夜間時のトイレ対応への不安などについて話し合い、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で個々の実績、勤務状況を把握し各自に応じた条件を整備し長く勤務してもらえるように努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響や公休確保を優先で法人内での研修となっているが、今後外部研修の機会もつくっていききたい。	外部研修は、職員に情報を伝えて、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。内部研修は、感染症対策に伴い、認知症、権利擁護と尊厳の保持、身体拘束と高齢者虐待防止、成年後見制度、薬剤と不眠、危険予知訓練、緊急時対応の内容で計画を立て、各資料を職員へ配布し、自己学習している。新人研修は、日常業務の中で、1ヶ月間先輩職員の指導を受けて、働きながら学べるよう支援している。	・研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染防止の影響もあり電話で情報交換は行っているが訪問等での交流は行えていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族にサービス提供時に不安や疑問をしっかりと確認し説明を行うようにし、ご本人とは早く信頼関係が築けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意向や要望をお聞きし安心していただけるよう説明や報告を細目にし関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意向や状態を見極め理解し支援方法を決定している。状態や要望に応じて変更も検討している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者としてだけでなく一緒に生活していく家族の立場で関係性を築いていくよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係性が途切れないように状況を報告し把握していただき関係性が継続できるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染拡大で面会も制限させていただいている中、電話や動画、玄関先での面会ではあるが短時間の面会でご家族との関係が途切れないように努めている。	家族や親戚の人、友人の来訪時には、感染症対策を徹底した上で、玄関での面会やタブレットを利用した面会を工夫している。手紙、ライン動画やSNSを利用した交流、電話の取次ぎなど、馴染みの人との関係が途切れない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や能力等を考慮しお互いが穏やかに過ごしていただけるよう座席の配置を考慮し、活動内容によっては移動し良い関係性が保てるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お会いする機会は少なくなったが季節の便りやメール等で関係性を大切にお付き合いさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望は日々の生活の中から把握できるように努めている。全てが希望通りにして差し上げることは困難ではあるが、なるべく本人本位で過ごせるように検討している。	入居時にライフサポートプランの様式に沿って、生活歴、趣味、食事形態、アレルギーなどを把握している他、日々の関わりの中で利用者についての気づきなどを処遇日誌に記録し、センター方式の活用と併せて、本人の思いや暮らし方への希望の把握に努めている。把握が困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境や今までの暮らし方についてはご家族から情報を頂き、なるべく馴染みの生活に近づけるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態や力量を考慮し無理のない出来る事を継続できるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態をスタッフで報告し、気づきを伝え観察し状況に応じて短期間変更し様子観察をし計画の変更や建て替えに反映させている。	計画作成担当者を中心に、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、同時に見直しをしている。利用者の状態に変化がある場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入が介護計画に反映できるように記入をするように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かしニーズに合った支援や必要なサービスが提供できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーには地域住民の方や自治会防災部長、民生委員、警察官の方々居られ協働し支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制である主治医でのメリットをしっかりと伝え理解を得、主治医と日々の健康や状態の変化に応じて相談や報告で適切な医療を受けられる体制を整えている。	本人や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。定期受診時には利用者の状況を口頭で伝えて投薬など指示を受けている。他科受診は事業所で支援し、結果は電話やラインで家族に伝えている。夜間や緊急時は、協力医療機関との24時間オンコール体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の身体状況や気づきを報告し情報共有し指示を得て日常の健康管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化で起きる混乱を軽減できるように、主治医、ご家族と連携し早期退院に向けて支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス提供時にご意向を確認、また状況に応じて細目に報告、相談を行いその都度最大の支援が出来るよう努めている。	契約時に、「利用者の重度化時の対応に関する指針」「看取りケア対応指針」に基づき、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族や主治医、看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	状態に応じた緊急時の対応が出来るように日々の支援の中でシュミレーションし実際の時に慌てず対応できるように努めている。	事例が発生した場合は、対応した職員がヒヤリハット、事故報告書に記録し、当日出勤の職員間で話し合い対応策を検討した後に、管理者に報告している。他の職員は、ボードや日報で確認し、共有している。その後は、日常業務の中で対応方法などについて一定期間試行し、再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。発熱、けいれん、脱水、熱中症など緊急時の対応について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーには地域住民の方や自治会防災部長も参加下さり、情報を共有し協力体制を築いている。	年2回、夜間想定火災時、風水害の避難訓練を事業所独自で実施している。消防計画や防災マニュアルを作成し、緊急連絡網の設置により、運営推進会議のメンバーでもある自治会長や自治会防災部長に通報し、自治会長から自治会全員へ連絡する体制が整っている。非常時における備蓄には、水や缶詰、お米などの保存食、介護用品を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応するよう努めている。	職員は、権利擁護と尊厳の保持について学び、利用者一人ひとり人格をの尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応があれば管理者が指導している。個人情報の管理や取り扱いに留意すると共に、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いが言えるよう会話の流れを作り自己決定できる環境づくりをするよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで過ごしていただけるように支援できればよいが、スタッフ優先になっている事も多い。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や整髪ができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、食器拭き等個々の力量に応じて一緒に行い同じものを一緒に食している。	食事は、利用者の希望を聞き、職員が献立を考えて、旬な食材や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせてきざみ食、ミキサー食など形状を工夫している。利用者は、皮むきなど野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じ食事で、一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、ひな祭りのちらし寿司、母の日の寿司、夏のソーメン、敬老会の特別食、クリスマスの盛り合わせ、年越しそば)、誕生日のケーキ、バナナを凍らせるなどのおやつづくりなど、食事を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、個々の状態や主治医の指示の下決定し、週1回の体重測定によっても調整。ノンカフェインの緑茶を作り細目に摂取し口腔内の乾燥を防ぎ感染予防にも努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをスタッフの見守りでやっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し訴えや仕草でサインを見逃さず対応している。	排泄記録を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや関わり方の工夫をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のお味噌汁には毎日ワカメを用いている。個々の状態に応じてひじきご飯にしたり、ヤクルトの飲用等で調整している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	スタッフの都合で入浴時間が決まってしまうが、個々の希望で順番を調整したり、曜日の調整を行っている。	入浴は、毎日、時間を決めず、その日の行事や利用者の希望、体調に合わせており、職員と会話したり、歌を歌ったりして、入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状態に応じて、清拭、シャワー浴、足浴など個々に対応している他、入浴剤を使ったり、ゆず湯など季節に応じた工夫をしている。入浴したくない人には声かけの工夫、時間の変更、職員の交代など、無理強いをせず、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や生活習慣によって日中臥床できるように支援している。また夜間の良眠に繋がるように時間も考慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票があり、個々の服薬内容を全スタッフが把握できるよう処方内容の記入を行い、準備や与薬で間違いが無いよう2名体制で誤薬防止に努めている。与薬時は名前と日付いつのお薬かを声に出して対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量や生活習慣、趣味などから得意分野が発揮できるように支援している。	テレビ(ニュース、ドラマ、時代劇、歌番組、野球)の視聴、本を読む、新聞を読む、広告を折る、新聞紙でのごみ袋づくり、貼り絵、ちぎり絵、ぬり絵、折紙、書写、脳トレ(計算、漢字、間違いさがし)、パズル、生け花、歌、ラジオ体操、梅干し体操、ボール投げ、犬とのふれあい、草抜き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃き掃除、拭き掃除、食事の手伝い(下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭き)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の工夫をして支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在外出は控えているが、庭先に出て季節感を感じてもらえるように支援している。暖かくもなり密集していない場所への外出支援をしていければと思う。	コロナ禍でなるべく外出は控えているが、近所の散歩や駐車場での外気浴、ポストに郵便を出しに行っている。感染状況に応じて、近くの桜や芝ざくら、藤の花見などにも出掛けている。病院の帰りには、市内をめぐる気分転換を図るよう努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や物忘れから個人での所持は行っていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用して会話や写真、動画で繋がりを大事に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の性格、力量等を考慮し座席の配置、季節感のある壁紙作りも一緒に行い心地よく過ごしていただけるように支援している。	玄関には季節の花を飾り、職員の顔写真と名前を掲示している。大きな窓からの陽ざしでリビングは明るい。室内は回廊式になっており、日々の運動に活かしている。大型テレビやゆったりと座れるソファを配置し、畳コーナーは利用者が思い思いに過ごすことができる居場所となっている。壁面には、貼り絵、ぬり絵など利用者の作品や季節の壁紙が飾ってある。キッチンからは、調理の匂いや音がして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や力量に応じて座席配置しているが、座席を移動し会話ができたり活動できるようにスペースを作り一人で過ごせるソファに移動されたりと居場所作りに工夫し対応している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具類は馴染みの物を搬入して頂いている。また入居されることにより新たに購入する必要がないこともお伝えし安心して過ごせる環境作りに努めている。	居室の入り口には職員が描いた利用者の似顔絵が掛けてある。利用者自身が作成した刺繍をはめ込んだダンス、三段の衣装ケース、テレビ、鏡台、座椅子、ソファ、化粧用具、花の置物、人形、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、夫や家族の写真や利用者自身の若い頃の写真、プレゼントのメッセージ、お守り、カレンダーを飾り、本人が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活で混乱を招かないような、安全も重要視しわかりやすい環境整備に努めている。		